

OpenText Server Backup – Public Cloud

クラウドでサーバーバックアップとサイバーセキュリティ防御を組み合わせることでサイバーレジリエンスを提供



メリット

- バックアップとセキュリティを一緒に管理することでサイバーレジリエンスを向上
- Windowsサーバーを保護し、障害時のダウンタイムを短縮
- 管理オーバーヘッドを削減し、ストレージコストを最適化

MSPにとってのメリット：

- ビジネス継続性の確保により顧客離れを防止
- コスト効率に優れたパブリッククラウドストレージにより収益が向上
- マルチテナントと役割ベースのアクセス制御によりサポートを簡素化

今日のITチームとマネージドサービスプロバイダー(MSP)は、ハードウェア障害、サイバー攻撃、自然災害、コンプライアンスリスクから生じるダウンタイムに備えてサーバーを保護しなければならず、そのプレッシャーは増大するばかりで、過度な負担を強いられています。しかし、従来のバックアップツールは多くの場合、ベンダーの拡散とストレージコストの上昇によって拡張性が低下しており、複雑さを生むばかりです。OpenText™ Server Backup – Public Cloudでは、サーバーバックアップツールとセキュリティツールが単一のマルチテナントコンソールに統合されているため、管理の簡素化、リカバリの高速化、顧客所有のAWSパブリッククラウド環境へのコスト効率に優れた導入のサポートを実現できることから、こうした問題を解決できます。

サーバーをバックアップする理由

アクシデントやサイバー攻撃によってサーバーのダウンタイムやデータ損失が生じると、早々にビジネスの運営に支障を来し、顧客の信頼を損なう可能性があります。実際、バックアップを行っていない中小企業(SMB)は、ランサムウェア攻撃を受けている間、\$192,000の追加コストが発生すると予想されています¹。これには、生産性の低下に伴うコスト(中小企業の場合、1時間当たり\$5,000程度と想定²)は含まれていません。

企業は、迅速なリカバリと厳格なコンプライアンスに対する期待の高まりに応えながら、重要なデータを保護する方法を必要としています。OpenText Server Backup – Public Cloudを利用すると、信頼性と費用対効果の高いサーバー保護を実現しながら、ダウンタイムを最小限に抑え、サポートを簡素化し、信頼できるビジネスパートナーとしての評判を高めることができます。

1. At Bay, 『Backup Breakdown How Data Recovery Impacts the Outcome of Cyberattacks』、2023年

2. ITIC, 『Hourly Cost of Downtime Report』、2025年



OpenText™ Secure Cloudとグローバルサイト管理コンソールを使用



- ✓ 役割ベースのアクセス
- ✓ AES256暗号化
- ✓ 地域のデータレジデンシー
- ✓ コンプライアンスに準拠した保持

Server Backup – Public Cloudの利点

管理を簡素化してサイバーレジリエンスを向上

OpenText™ Secure Cloudおよび既存の管理コンソールと直接連携しているOpenText Server Backup – Public Cloudでは、サーバーバックアップツールとセキュリティツールが単一のマルチテナントプラットフォームに統合されています。そのため、請求やサポートなどの日常的なタスクを容易に自動化でき、管理オーバーヘッドを削減できます。MSPは、同じプラットフォーム内の複数のクライアントを監視できるとともに、自社のサービスポートフォリオを多様化することで利益を得ることができ、新たな収益源を開拓して収益性を強化できます。

バックアップとセキュリティ管理が統合されているため、お客様はOpenTextの広範なサイバーレジリエンスエコシステムの重要な階層にアクセスできます。組み込みのテクノロジーにより、攻撃の防止、迅速な検知と対応による被害の軽減、中断のないリカバリの確保によるコンプライアンスとアップタイム目標の達成が可能になります。こうしたテクノロジーの連携によって、サーバー、エンドポイント、電子メールなどの通信チャネルの全体にわたる包括的な防御が形成されます。

ダウンタイムを低減しながら総所有コストを削減

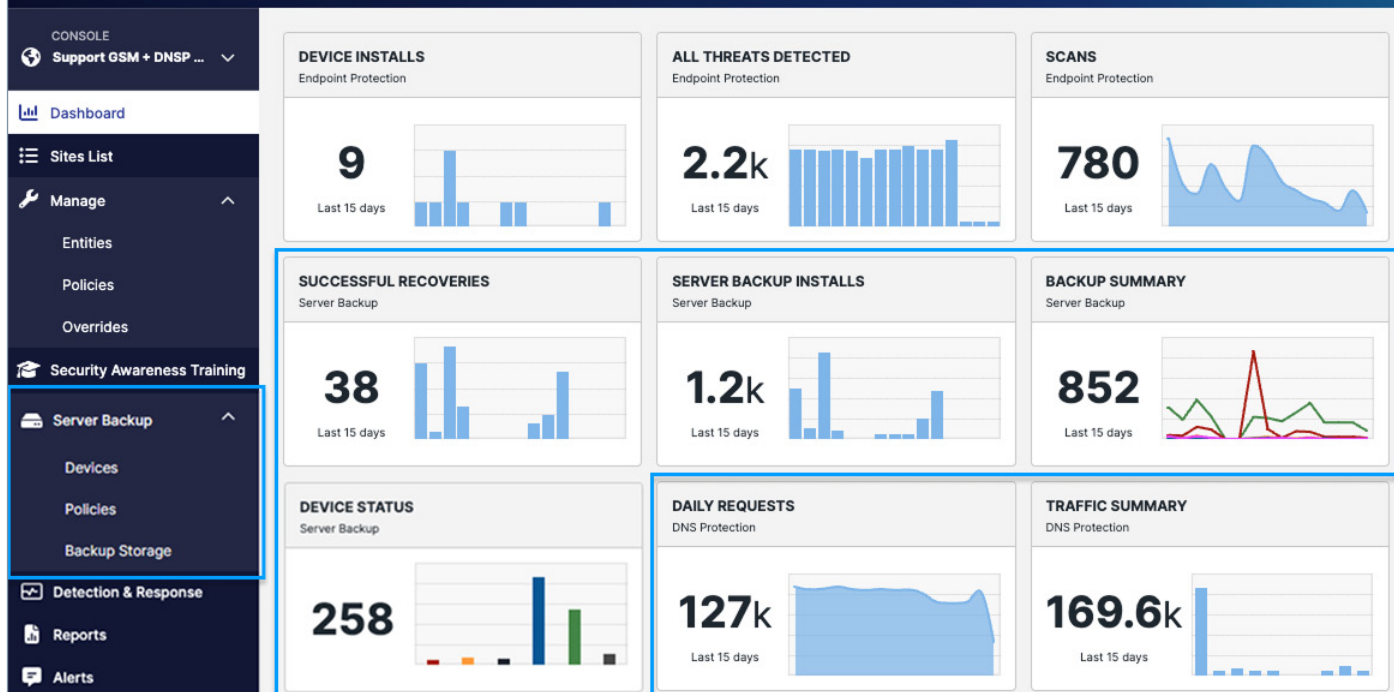
小規模企業は、自社のAWSパブリッククラウドアカウント(Bring Your Own Cloud (BYOC))をバックアップに活用することで、コストを削減できます。パブリッククラウドのストレージを利用することで、高価なアプライアンスを使わずにセットアップを迅速化してサービスデリバリーを拡大できます。手動での更新作業もありません。さらに、増分バックアップを永久的に実行することで、すべてのリストアポイントにわたって完全なデータ整合性を維持しながら、データ転送とストレージのコストを最小限に抑えることができます。このような合成的なフルバックアップにより、バックアップチェーンを再構築する必要がなくなるため、リカバリ時間目標(RTO)が劇的に短縮され、リカバ리를より迅速かつスムーズに行えるようになります。リカバリの中断の頻度も減少します。

OpenText Server Backup – Public Cloudは、迅速かつ柔軟な復元をあらゆるレベルでサポートしています。たとえば、個別のファイル、特定のボリューム、サーバー全体のそれぞれを対象にしたリカバリや、オペレーティングシステム、データ、アプリケーションを含むシステム全体を一から復元するベアメタルリカバリを実行できます。AWS S3パブリッククラウドストレージには、3つの可用性ゾーンにわたって自動的に保存された3つのバックアップデータコピーが保持され、一貫したアップタイムと99.9999999999%の耐久性が保証されます。加えて、デュアルAES-256および顧客制御の暗号化により、転送中と保存中の両方のデータの安全性が維持されます。

顧客の信頼とコンプライアンスを強化

中断のない障害復旧テストにより、実稼働システムに影響を与えることなく、サイバーレジリエンスを検証できます。データが常時保護されていることを確認して、お客様やパートナーからの信頼を高めることができます。MSPの場合、信頼性の高いビジネス継続性を実現することで、クライアントの定着につなげ、マネージドサービスに対する長期的な信頼を強めることができます。

また、パブリッククラウド環境へのバックアップを行っておくと、コンプライアンスの義務を果たすのが容易になります。地域のデータレジデンシー要件とカスタマイズ可能な保持ポリシーに対応できる柔軟性が得られます。データ暗号化に比類のない耐久性を組み合わせたOpenText Server Backup – Public Cloudでは、今日の規制環境が求めるセキュリティと監査に対応する用意ができています。



OpenTextを選ぶ理由

複雑なセットアップ作業、堅牢なインフラストラクチャ、サイバーセキュリティ向けの別のプラットフォームを必要とする他のバックアップソリューションとは異なり、OpenText Server Backup – Public Cloudでは、小規模ビジネスにおいて効率性を実現するために構築されたオールインワンのエクスペリエンスが提供されます。単一のマルチテナントコンソールにより、1か所からすべてを管理できます。独自のハードウェアに依存する必要はなく、限られたストレージオプションや断片化されたツールを利用せざるをえないという事態になることもありません。

OpenText Cybersecurityポートフォリオの強みに裏打ちされたパブリッククラウドの自由さを享受できます。最先端の電子メール、エンドポイント、アーカイブソリューションとの連携により、今日の最新のデジタル脅威に対するサイバーレジリエンスを構築できます。OpenText Server Backup – Public Cloudの実際の動作をご覧になりたい場合は、[こちらからデモをリクエストできます](#)。

OpenText Server Backup – Public Cloudは、OpenText Secure Cloudおよび当社の一元管理コンソールの一部としてデータを保護します。そのため、お客様は価値の提供とビジネスの成長に集中することができます。10万社を超える企業が、サイバーレジリエンスの構築にあたって、OpenText Secure Cloudを頼りにしています。

[詳細はこちら](#) >